

第三章 高卒訓練生の素質に関する実態について

1. 高卒訓練生の身体的、精神的な一般特徴について

高校卒業者に対する養成訓練は中学校卒業者に対する養成訓練と異質なものとしてみたい。

中卒者とことなる高卒者の一般的特徴として次の点があげられる。

第1の特徴として、普通課程、工業課程、商業課程など各種の課程の高等学校教育をうけて、それぞれことなった知識、技能、態度を形成しているが、共通していえることは一般的な基礎能力は形成されているものと考えられること。

第2の特徴として、年齢段階的にみて職業的成熟をし、自主的な判断で進路選択ができるようになってきていること。

第3の特徴として、大学など高等教育機関に進学する比率が20～30%であり、高校卒業者の多くは、なんらかの職業生活を決定する段階にあること。

第4の特徴として、身体的発達および知能など精神的発達がある一定段階に達し、発達曲線がなだらかになること。

これらの特徴をあげることができる。

2. 高卒者の養成訓練の実態

現状の総高訓では、各訓練職種ごとのクラスともに中卒者の中に高卒者が混在しているところが多いのである。

しかし、特定の職種、たとえば機械製図や無線通信科、電子機器科、原子力科などのように高卒者のみを学級単位としている訓練職種もある。また、高卒者の応募があった場合に特定の訓練職種科に集中して高卒者を入れている総高訓もある。たとえば、自動車整備科などはその学級にあてられる場合が多いのである。

学級編成が高卒者のみでなされている場合はよいが、さきに調査対象者について示したように、中卒者の多い学級の中に、高卒者が点在的に在籍していることは、中卒訓練生にとっても、高卒訓練生にとっても学習効率をさげる原因の1つになっている。

このように、中卒訓練生の中に高卒訓練生が混在している学級数は45年度調査対象学級数129のうち、57学級で44.8%である。

例えば、機械科では、8/19校、が混在訓練をしており、自動車整備科では13/18校、電気機器科では7/10校である。

さらに、高卒訓練生の在籍率をしらべたのが第27表である。

訓練職種別にみると、電子科、自動車整備科に高卒訓練生の在籍が多い。また、機械製図科は全員高卒者である。

総高訓別にみると、総高訓「10」、「17」、「18」、「20」、は40%以上を高卒訓練

生がしめている。

調査対象のうちで、45年における高卒在籍率は18.4%、44年が16.0%で43年が19.5%
で、年次別にみて、高卒訓練生在籍率はほぼ一定している現状にある。

調査対象校のうち高卒訓練生在籍率

第 27 - 1 表

%

年 職 種	43	44	45
電 子	34.0	29.2	58.2
電 気	19.2	11.3	16.7
機 械	5.1	6.0	5.3
仕 上	0	3.0	0.7
精 機	(0.0)	3.7	2.2
自 動 車	51.6	41.4	41.9
板 金	6.3	9.0	7.7
溶 接	10.4	7.2	9.9
鋳 物	0	0	4.3
配 管			
木 工	8.1	1.4	2.2
塗 装	6.1	5.7	9.3
ブ ロ ッ ク	0	0	5.9
製 図	100.0	100.0	100.0
織 機		71.4	0
フ ラ イ ス		0	0
銅 器		0	
製 カ ン		0	0
第 2 自 動 車		47.0	37.5
電 工		0	20.0
建 築		0	19.4

第 27 - 2 表

%

年 校	43	44	45
01		8.3	10.3
02		12.6	9.3
03		0	2.4
04		28.6	9.4
05		11.6	16.8
06		40.1	29.8
07		1.2	0
08		1.4	1.9
09		0	0
10	62.7	62.6	45.2
11		18.1	13.4
12	4.1	0.8	19.4
13		26.5	
14	27.2	27.9	23.8
15	0	0	3.6
16	6.7		9.9
17	61.6		60.0
18			78.7
19			23.0
10			47.0
平均	19.5	16.0	18.4

(143)

3. 高卒訓練生集団と中卒訓練生集団の素質の比較

中卒訓練生の素質の実態については前章で述べた通りであり、高卒訓練生の素質についても後節で詳細に述べるつもりである。

本節では両群の素質の差異を明確にするために、各側面から対照させて図示することにする。知能からみた素質を比較したのが第28表である。また、職業適性検査からみた素質を比較対象としたのが第30表である。

3年間を通して、中卒訓練生 年と高卒訓練生3年とでは年令による成熟や教育機関における学習習得量とはことなつた素質にかなりの差異があることが認められる。

さらに、職業興味の傾向においても、第14図のように高卒訓練生群と中卒訓練生群とでは異なつたプロファイルを描いている。

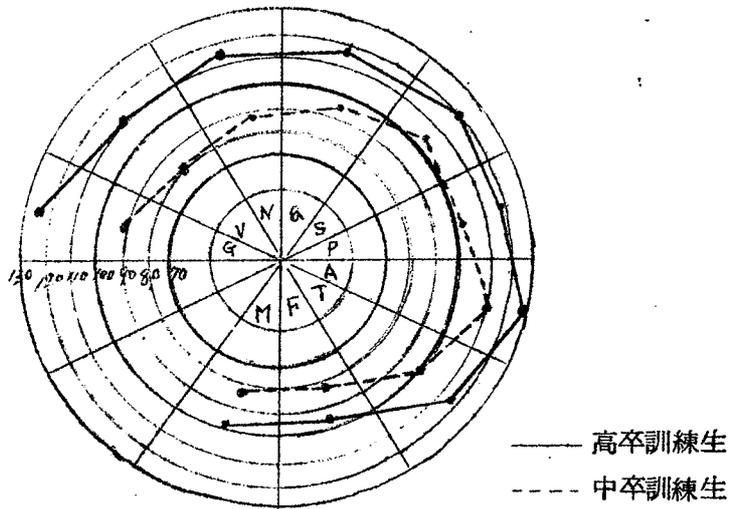
このように素質および職業興味の実態は両群によりかなり異なることが証明された。このように、この両群の素質差異がある実態に注目してどのようにとらえて訓練の実践をおこなうかは考察するに値する主要問題である。

第28表

中高卒別	年	45年		44年		43年	
		AV	SD	(AV)	(SD)	AV	SD
01 中卒者		47.0	8.3	48.0	8.1	48.5	7.6
02 高卒者		53.0	8.0	53.0	6.9	53.6	6.7

第29表 学歴別知能偏差値分布

SS分布		学歴					
		34以下	35—44	45—54	55—64	65—74	75以上
45年度	中卒	6.2	24.2	47.6	20.7	1.3	0
	高卒	1.6	9.9	43.2	39.0	5.5	0.8
44年度	中卒	5.1	24.8	49.6	19.2	1.3	0
	高卒	0	11.7	41.0	42.9	4.4	0
43年度	中卒	5.7	27.7	47.6	18.1	0.9	0
	高卒	0	9.6	50.0	36.2	3.2	1.0



第13-2図 職業適性プロフィール

44年度

性能区分		G	V	N	Q	S	P	A	T	F	M
		平均	01 中卒	92	81	89	95	106	98	103	98
	02 高卒	122	112	113	115	117	112	118	116	98	110
SD	1 中卒	20.0	18.9	22.7	21.3	19.6	21.0	26.3	25.3	22.1	23.9
	2 高卒	20.5	18.8	21.2	20.8	19.1	19.0	27.6	25.5	22.6	27.0

N = 1701

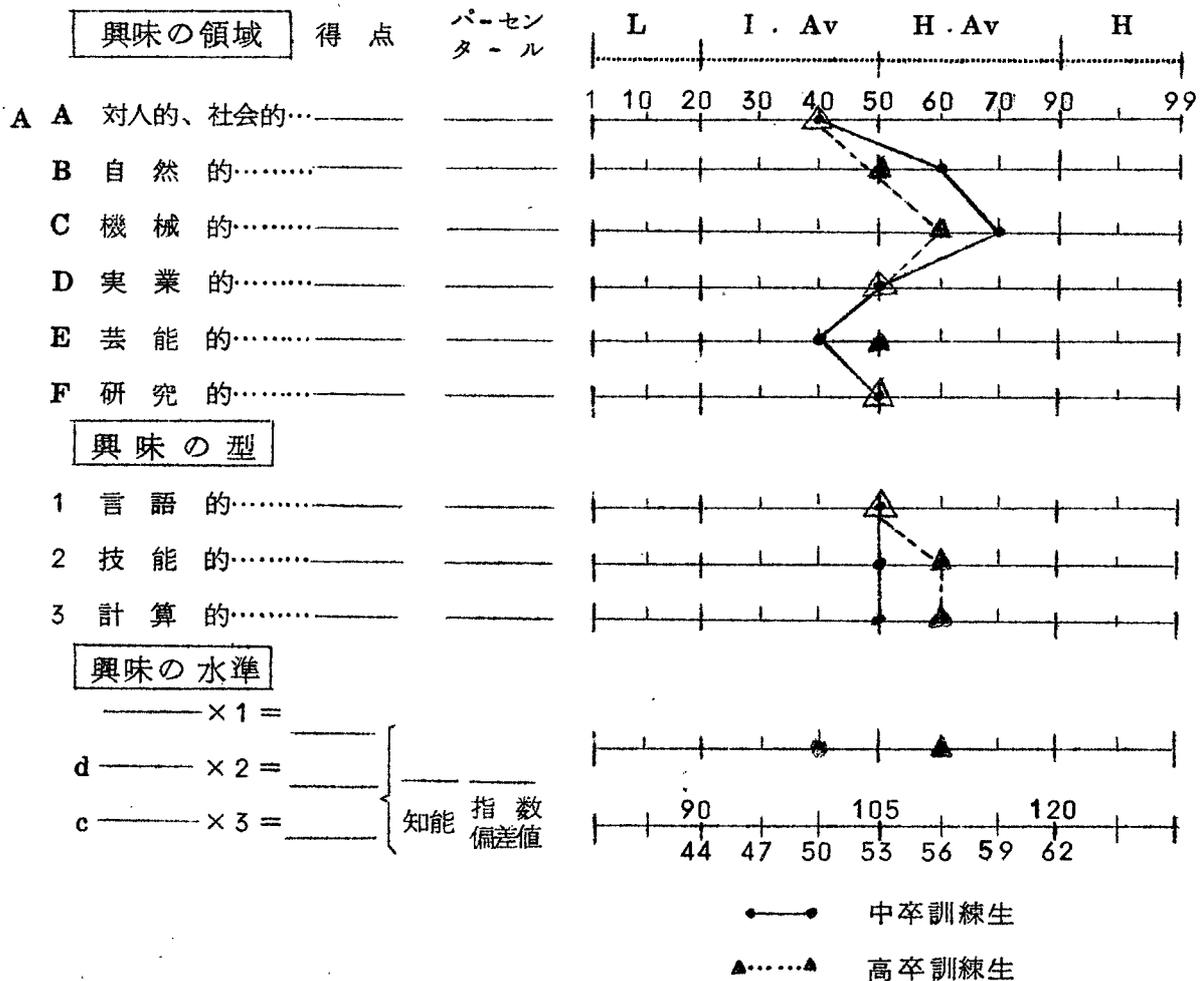
43年度

AV	1 中卒	93	83	90	96	105	97	104	92	84	86
	2 高卒	126	114	115	118	120	112	119	107	99	102

第30表 職業適性性能の比較

N = 877

第14図 学歴別職業興味プロフィール



2. 高卒訓練生の知能検査からみた素質について、

2-1 全般的傾向

昭和45年度調査における高卒訓練生集団の知能偏差値はSS 53.0で、その標準偏差はSD 8.0である。(第31表)

3年間の素質の変化状況を見ると、43年の知能平均値はSS 53.6、44年SS 53.0であるから、年次的に変化はなく、高卒訓練生集団の素質はほぼ一定しているといえよう。

しかし、年次的に標準偏差をみると、43年のSD 6.7、44年のSD 8.0と高卒訓練生集団の分散が徐々にではあるが、大きくなっている。

つぎに、高卒訓練生の知能偏差値の段階ごとの分布を年次変化としてみると、第15図第32表のごとく、二つの特色がみられる。

1つは、知能偏差値65～75段階の人数比率が若干増大している。つまり、知能の非常に高い高卒者が少しではあるが増加している傾向にある。

2つは、43年度、44年度にはまったく存在しなかった知能偏差値34以下の低い知能の高卒者

が45年になつて1.6%入校していることである。

しかし、3年間調査してみて、この程度の変化であれば、高卒訓練生集団の知能からみた素質は一定の水準に固定化していると解釈するのが妥当であろう。

ところで、高卒者の養成訓練は高等教育水準の教育にひびきするのであり、短期大学と同じ2年間の課程であり、当然その内容も方法も高卒者に適するものを取りあげねばならないであろう。

大学で学業をすなおに進めた学生の平均知能指数はIQ110であると報告されている。そして、110以下の者の65%の学生が何かの点で学業に失敗していることが明らかにされている。

もっとも、知能と学業の正常の進行とは大学では+0.20～+0.70で相関係数にはばがある。

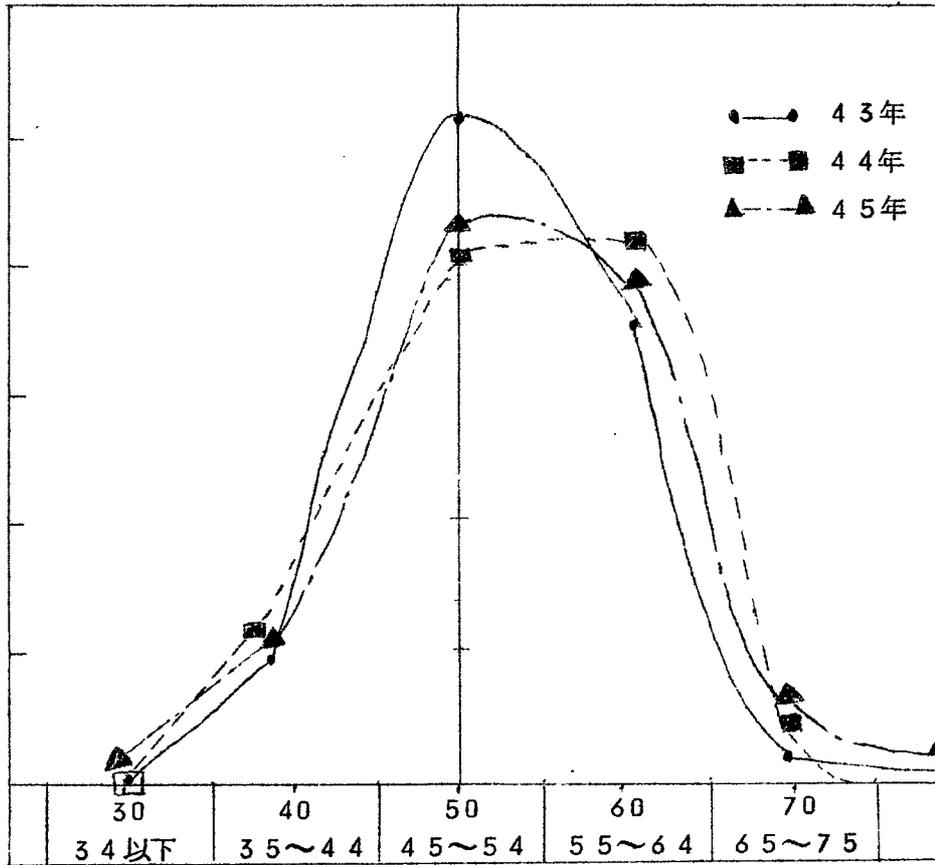
このような事実と比較すると、高卒訓練生の知能平均は知能指数におすとIQ106であるから若干低い、知能偏差値の段階分布でみると約45%の高卒訓練生は大学の学業に充分についていける素質をもっているといえる。

第31表 高卒者の知能程度の年次変化

項 目		年度		
		43	44	45
平均値	(AV)	53.6	53.0	53.0
標準偏差	(SD)	6.7	7.9	8.0
調査人数	(N)	188	247	364

第32図 知能偏差値分布 (高卒訓練生)

年 度	段階	%					
		34 以下	35～44	45～45	55～64	65～75	75以上
43		0.0	9.6	50.0	36.2	3.2	1.0
44		0.0	11.7	41.0	42.9	4.4	0.0
45		1.6	9.9	43.2	39.0	5.5	0.8



第15図 高卒訓練生集団の知能分布
年次変化

2-2 高卒訓練生についての総高訓別の傾向

総高訓別に知能平均値をみたのが第33表である。調査対象校のうち、高卒者在籍率が約10%以上の総高訓のみを分析考察の対象とする。

昭和45年度調査において、最も知能平均値の高い総高訓は「01」「20」のSS57であり、逆に低いのは総高訓「06」「10」「18」のSS51である。低い値を示す総高訓のうち2校は工業地帯に位置し、もう1校は高卒訓練生を主体として設立された総高訓である。

つきに、第34表により知能偏差値分布をみると、平均値の高い総高訓には知能偏差値SS45以下の低い値の高卒者は1人も入校していないことが認められる。

昭和44年度調査と45年度の総高訓ごとの知能平均値を比較してみよう。

44年より45年が低下しているものは総高訓「06」「10」の2校で、さきに述べた知能平均値の最も低い工業地帯の総高訓である。

逆に、45年が44年より上昇しているものは分析対象9校のうち、5校である。この5校のうち3校までは東北、北陸地方で、他の2校は大都市周辺の総高訓である。

さらに、高卒訓練生を主体とする、総高訓「17」は43年知能平均値SS57、45年SS56（標準偏差SD6.1）と高い素質を示している。しかし、同県内にある総高訓「18」の45年の知能平均値はSS51（標準偏差SD6.9）でかならずしも高い素質傾向を示していないのである。

訓練校別知能平均値

第 33 表 (高卒訓練生)

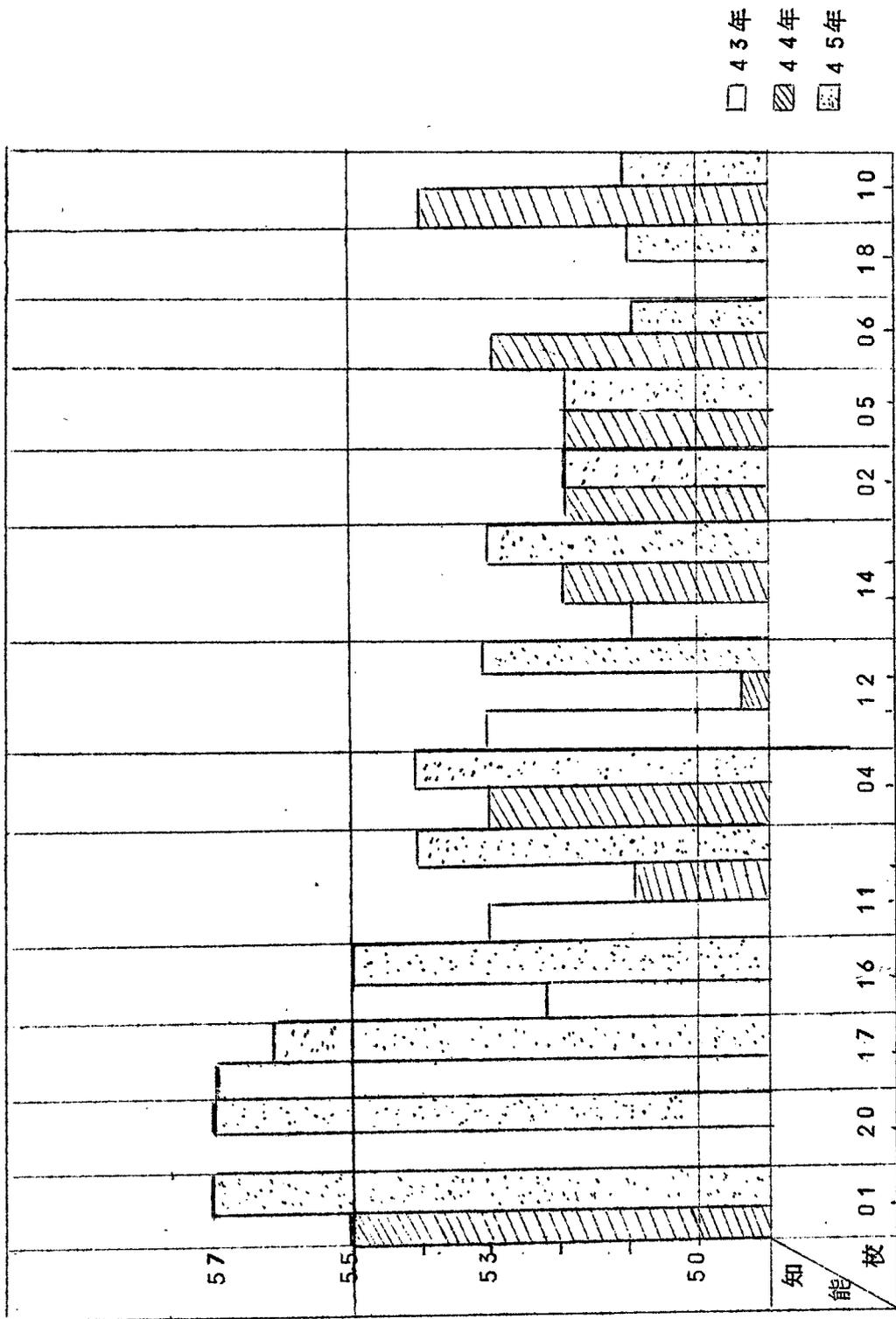
校 年 度	43	44	45
01	。	55	57
02	。	52	52
03	。	。	48
04	。	53	54
05	。	52	52
06	。	53	51
07	。	(49)	。
08	。	(39)	(54)
09	。	。	。
10	。	54	51
11	53	51	54
12	53	47	53
13	。	53	。
14	51	52	53
15	。	。	49
16	52	。	55
17	57	。	56
18	。	。	51
19	。	。	53
20	。	。	57
21	。	。	。
22	52	。	。
23	56	。	。
24	54	。	。
25	。	。	。

第 33-2 表 訓練校別知能偏差値 (高卒訓練生)

校 年 度	43	44	45
01		6.6	7.3
02		6.6	6.6
03		。	(6.3)
04		7.9	5.1
05		5.8	9.2
06		6.2	7.1
07		(0.0)	。
08		(0.0)	(0.0)
09		。	。
10		7.0	0.6
11		6.3	7.7
12		6.5	7.5
13		7.3	。
14		6.3	(5.9)
15		。	7.9
16		。	5.2
17		。	6.1
18		。	6.9
19		。	8.6
20		。	6.1
21		。	。
22		。	。
23		。	。
24		。	。
25		。	。

第 34 表 校別 知能分布 (高卒訓練生)

段 階 校 名	34以下	35~44	45~54	54~64	65~74	75以上	
01			8	8	3		
02		2	6	5			
(03)		1	1	1			
04			4	3	1		
05	1	3	7	5	2		
06	1	3	12	9			
07							
(08)			1				
09							
10	2	9	23	20	2	2	
11		3	10	10	2		
12		4	11	13	1		
14		1	15	13	1		
(15)		1		2			
(16)			13	5			
17		2	29	13	4		
18	1	7	14	27	1		
19	1	2	4	17	1	1	
20			7	8	3		
	6	38	165	149	21	3	382



第16図 総高訓別の知能平均値 年次変化

2-3 訓練職種別の傾向

訓練職種別に知能平均値をみたのが第35表である。

昭和45年調査で最も高い値を示す訓練職種は機械製図科で知能偏差値SS 58 (標準偏差SD 6.8) であり、最も低い値を示すのは鋳物科で知能偏差値SS 48 (標準偏差SD 6.3) である。

つぎに、3年間の変化傾向をみると、第17図のごとくである。

高卒者のみを対象とする機械製図科は例年高い値を示している。

この傾向の中で、自動車整備科の知能平均値が年次的に低下しているのが目立っている。

43年SS 55が、44年SS 53となり、45年にはSS 52と徐々に知能平均値が低くなっている。

溶接科、板金科、機械科等中卒訓練生の中に高卒者が混在している職種科では年次的変化は少なく、素質が一定している傾向と解釈できるであろう。

年次変化に関して、もう一つの特徴傾向は第17図にみるように、電子機器科をのぞく、他の訓練職種において、知能の標準偏差値がいずれも大きくなっていることである。

つまり、高卒訓練生の各職種群とも知能の分散が大きくなっている実態にある。

高卒訓練生集団の知能検査からみた素質の実態について明らかにした。

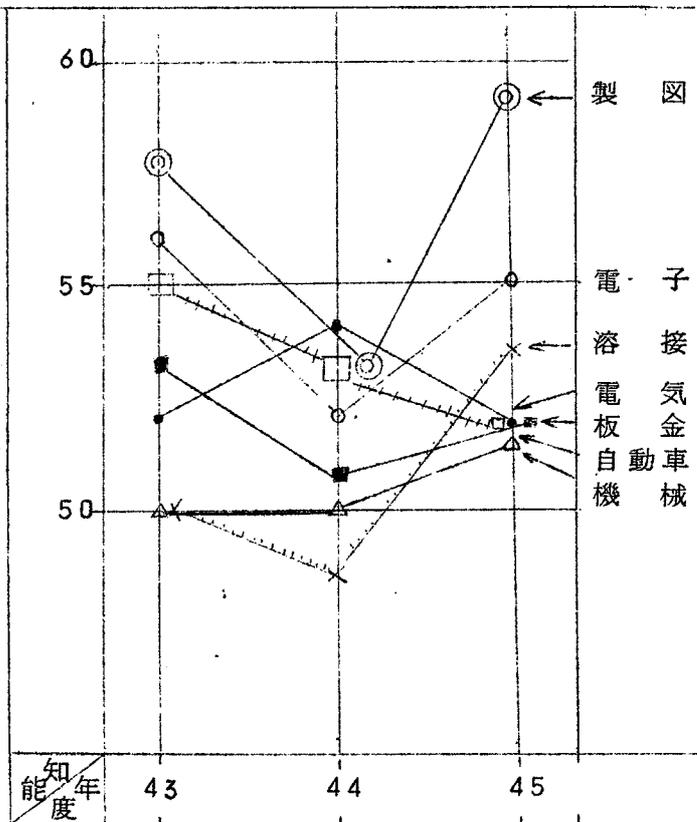
これは高卒訓練生ひとりひとりを指導する際に集団特性を配慮することが可能により、適性能力の発見の一助となるであろう。

第35表 職種別知能平均値 (高卒訓練生)

職 種		年 度	43	44	45
01	電 子		56	52	55
02	電 気		52	54	52
03	機 械		50	50	51
04	仕 上		。	47	(48)
05	精 機		。	61	(55)
06	自 動 車		55	53	52
07	板 金		53	51	52
08	溶 接		50	49	53
09	鋳 物		。	。	48
10	配 管		。	47	(57)
11	木 工		。	49	54
12	塗 装		。	(51)	50
13	ブ ロ ッ ク		。	。	(53)
14	製 図		58	53	59
15	織 機		。	55	。
16	フ ラ イ ス		。	。	。
17	銅 器		。	。	。
18	製 罐		。	。	。
19	第2自動車		。	56	50
20	電 工		。	。	50
21	建 築		。	(56)	54
22	金 型		。	。	58
23	無 線		。	。	(60)
24	原 子		。	。	56
25	印 刷		。	。	。

第35-2表 職種別知能偏差値 (高卒訓練生)

	43	44	45
01		6.9	(6.4)
02		7.7	7.9
03		7.9	10.1
04		5.0	(0.0)
05		8.5	(0.0)
06		5.8	7.4
07		8.3	12.3
08		6.2	8.4
09			6.3
10		6.9	(0.0)
11		1.0	4.6
12		(0.0)	10.1
13			(0.0)
14		6.3	6.8
15		8.4	。
16			。
17			。
18			。
19		7.7	8.7
20			2.8
21		(0.0)	5.9
22			3.6
23			(0.0)
24			5.9
25			。



第17図 高卒訓練生の職種別知能平均値の年次変化

3. 高卒訓練生集団の職業適性検査からみた素質について

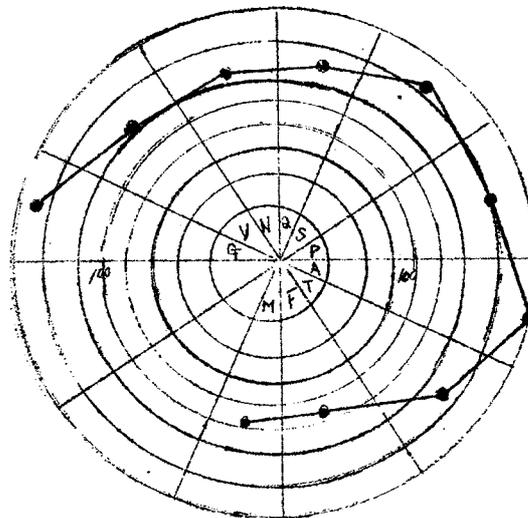
3-1 全体的傾向

45年調査における職業適性性能点の平均値は高卒訓練生適性プロフィール（第18図）に
しめしたごとくである。

各適性性能ともかなり標準化母集団（100）により高い値をしめしている。

つぎに、年次的にみると知能に関する能力は徐々に低下し、知覚に関する能力は徐々に上
昇している。この傾向は、前述した中卒訓練生集団とほぼ同様の傾向であるが、中卒訓練生
集団ほど顕著なものではない。

さらに、このような高卒訓練生集団の適性性能を労働省基準とあてはめてみると、適応可
能な職業群はいくつもあり、職業訓練の効果が十分に期待できる素質である。



第18図 高卒訓練生集団の職業適性性能平均プロフィール

第36表 職業適性性能の年次変化

（高卒訓練生）

		G	V	N	Q	S	P	A	T	F	M
AV	43	126	114	115	113	120	112	119	107	99	102
	44	122	112	113	115	117	112	118	116	98	110
	45	123	110	114	118	121	120	129	118	97	99
SD	43	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•
	44	20.5	19.8	21.2	20.8	19.1	19.5	27.6	25.5	22.6	27.0
	45	22.9	22.0	21.0	21.7	21.6	22.1	28.5	24.4	20.7	26.1

3-2 総高訓の傾向

総高訓別にみた適性性能はいずれも労働省基準の性能得点（仮にG-N-S-M<90、90、90、75、>）を充している。

例えば、高卒者在籍率の高い総高訓「06」と総高訓「10」を比較したプロフィール19-1、2図である。

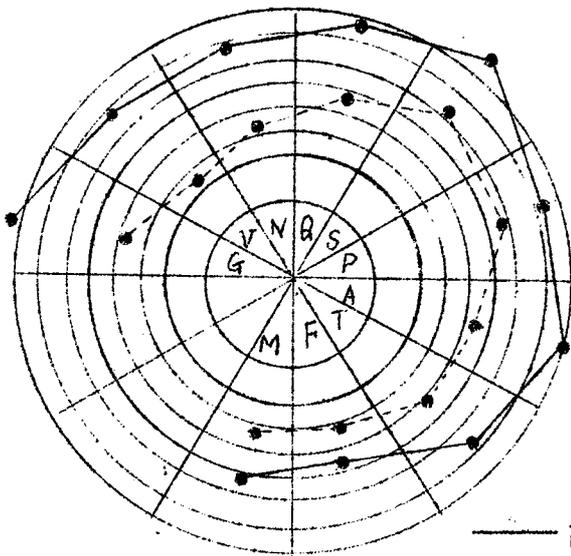
また、高卒者訓練校といわれている総高訓を比較したプロフィールが第19-3、4図である。

さらに、中卒訓練生が主で特定の科が高卒訓練になっており、それに加えて他の職種科に高卒訓練生が混在している総高訓の平均プロフィールは第19-5.1図のごとくである。

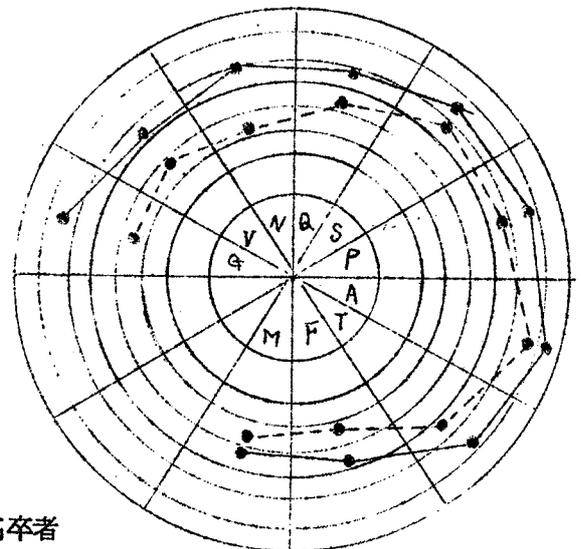
このように、総高訓別にみても、高卒訓練生集団の職業適性検査からみた素質は高く、訓練効果が期待される。

このような、高い素質をもつ、18才段階の青少年の適性、能力をいかすためには“鑄型にはめこむような技能者”の形成方針では、かれらのもっている能力、素質を充分伸ばすことはできず、また青少年の職業訓練で学んだことに対する、かれらの満足を見出すことも不可能と推測される。

高卒訓練生のその他の特徴をも配慮して、学習者みずから創意工夫して自己が学習したいと思う最高の段階まで学習できるように、カリキュラムなども編成されることがのぞまれる。

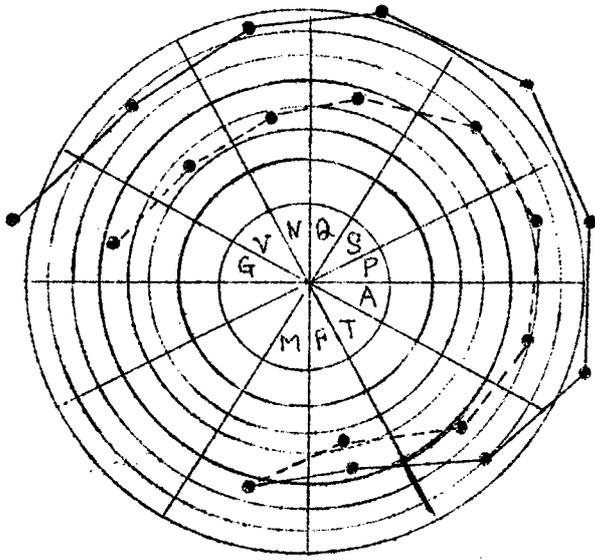


第19-1図 総高訓「06」

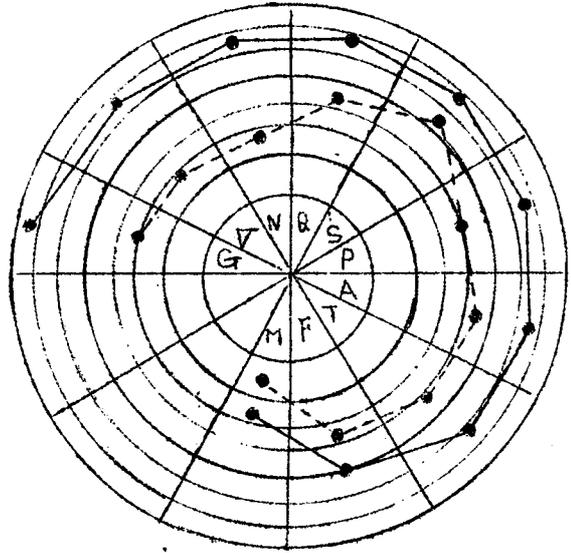


第19-2図 総高訓「10」

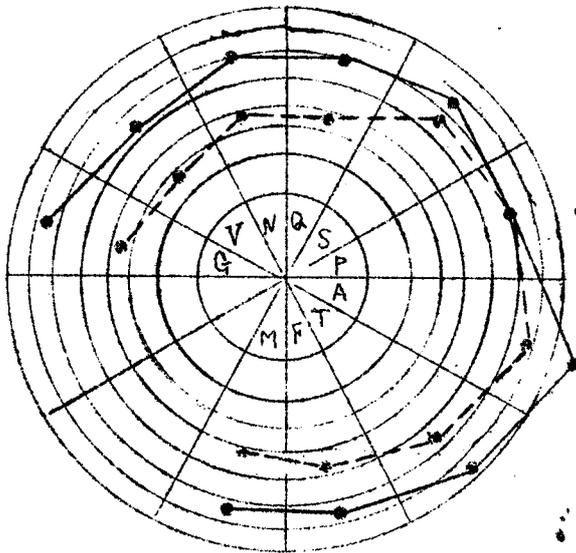
—— 高卒者
 - - - 中卒者



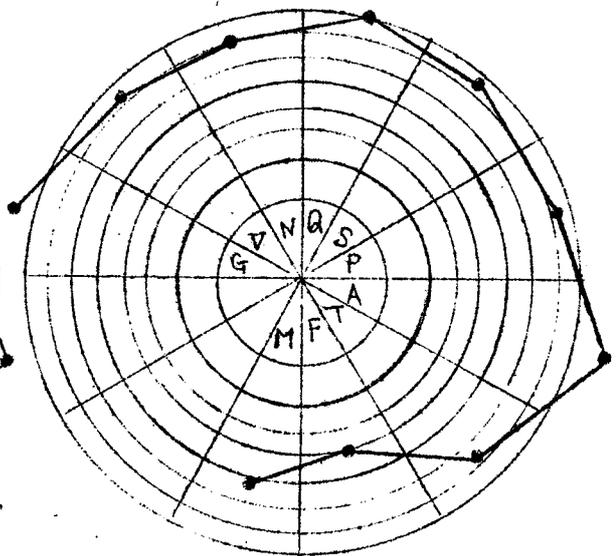
第 19-3 図 総高訓「17」



第 19-4 図 総高訓「18」



第 19-5 図 総高訓「14」



第 19-6 図 総高訓「01」

3-3 訓練職種別の傾向

訓練職種別に職業適性性能をみたのが、第36表である。訓練職種別の差異はあるが、一定水準以上にあるので中卒訓練生集団でみたように明確な差異があるとはいえない。

高卒訓練生の代表的訓練職種科である機械製図科（第20-1図）、電子科（第20-2図）自動車整備科（第20-3図）をプロフィールで示してみた。

さらに、電気科（第20-4図）、機械科（第20-8図）、板金科（第20-5図）、溶接科（20-6）はそれぞれ松本基準以上の各性能を示している。（……が松本基準）

このように、職種別にみても、高卒訓練生集団の適性からみた素質が高い実態にあることを示している。

これは高卒訓練生ひとりひとりを理解する基準となる。

例えば、高卒訓練生であっても、かれ個人の適性能力がここに示した高卒訓練生集団の基準以下であれば、集団訓練方式をとっている現状の職業訓練の学習課程でかなり苦勞をとまうこともありうると思われる。

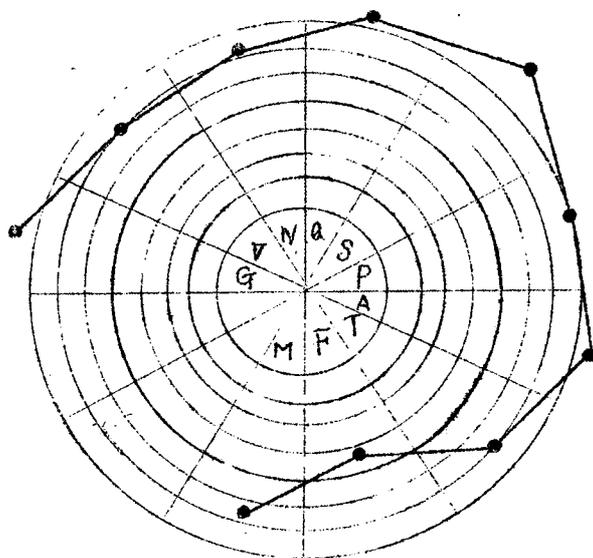
さらに、高卒訓練生の個々の指導にあたっては、高卒訓練生集団の基準との関連をみると同時に、職業訓練という進路を選択した動機を的確に把握し、かれらの期待を満足するような配慮が必要と思われる。

以上が、高卒訓練生集団の素質の実態、およびそれに関連する若干の考察である。

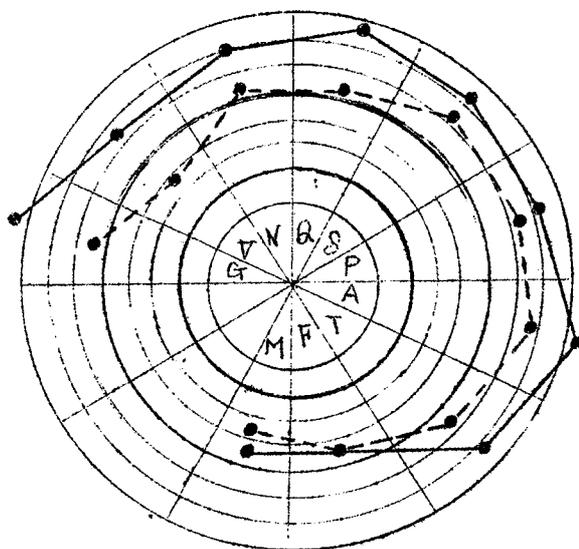
第36表 職業適性性能の職種別平均値

(高卒訓練生)

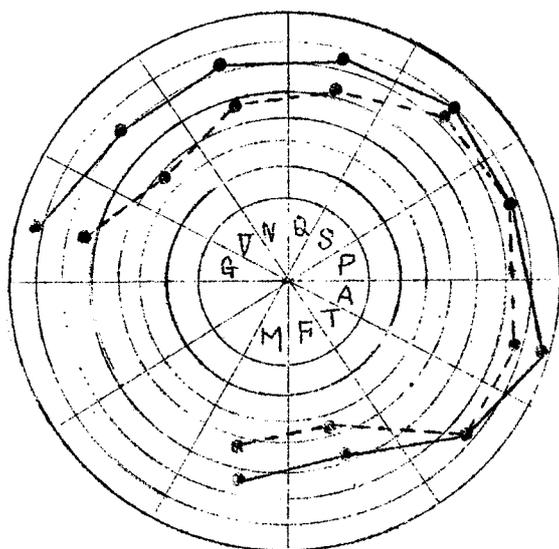
職種	能性	職業適性性能									
		G	V	N	Q	S	P	A	T	F	M
01	電子	132	118	120	128	126	123	131	121	96	95
02	電気	120	112	117	114	111	114	126	122	102	91
03	機械	100	88	102	107	107	109	122	109	91	96
06	自動車	122	110	112	114	120	119	129	117	99	102
07	板金	112	106	106	111	110	119	130	119	98	93
08	溶接	117	101	114	115	121	113	128	116	99	85
14	製図	137	120	124	131	135	130	134	117	91	102
19	第2自動車	117	104	118	104	114	130	142	118	91	112
21	建築	111	106	101	114	125	129	158	124	109	110
23	原子力	144	129	137	138	124	122	135	133	96	117
24	無線	112	93	108	127	118	120	119	101	73	95



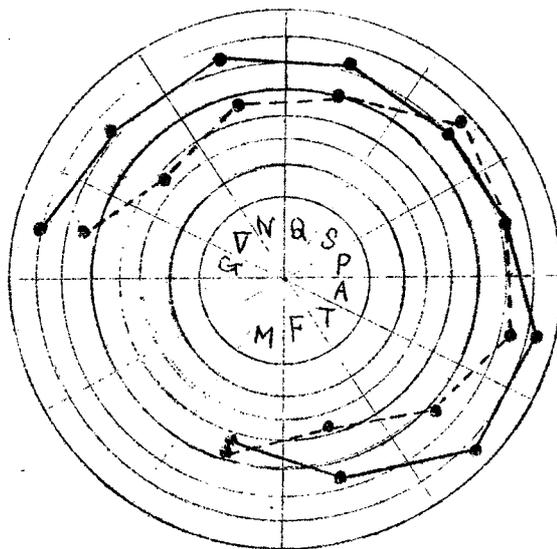
第20-1図 機械製図科



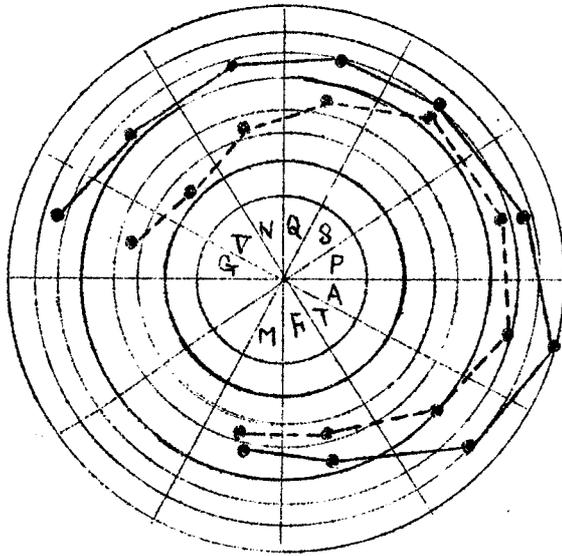
第20-2図 電子科



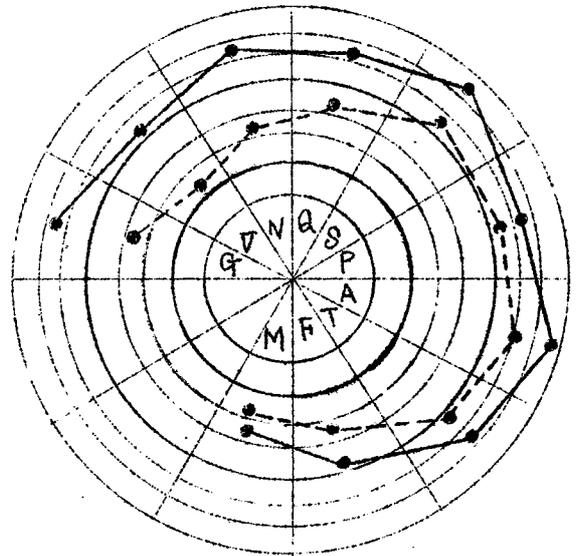
第20-3図 自動車整備科



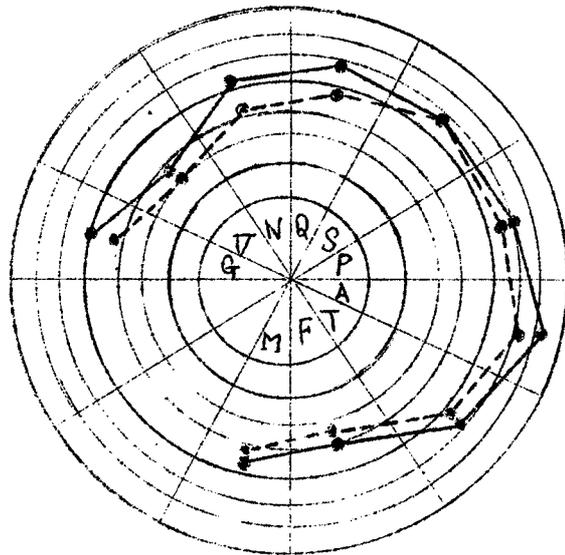
第20-4図 電気科



第20-5图 钣金科



第20-6图 溶接科



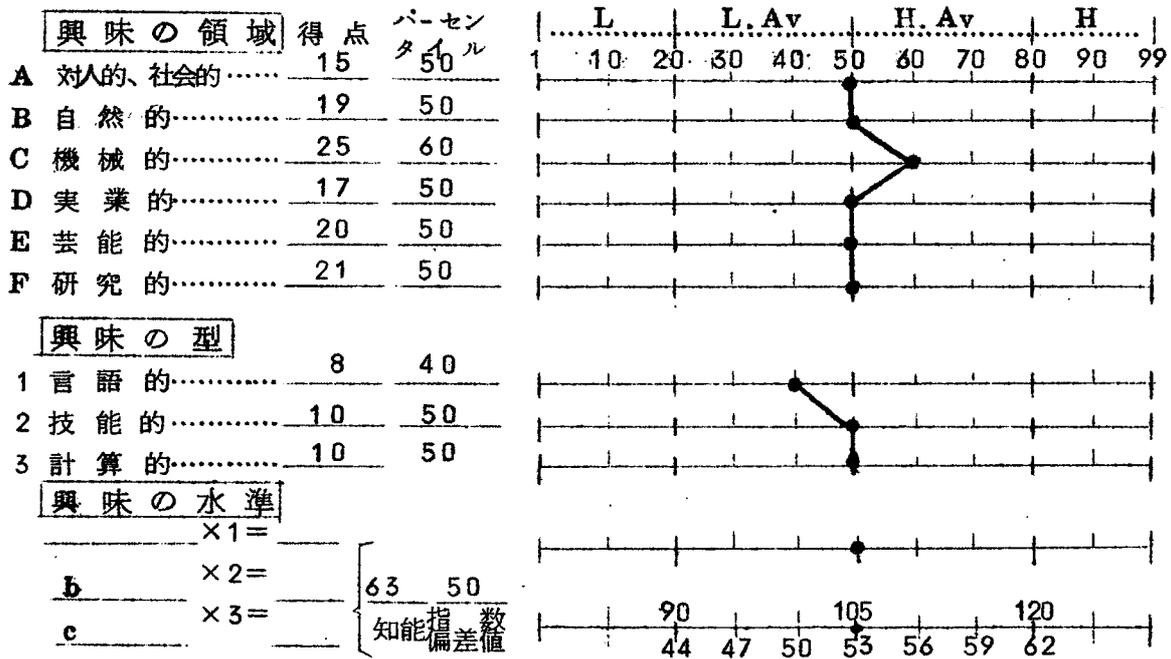
第20-7图 机械科

4. 高卒訓練生の職業興味について

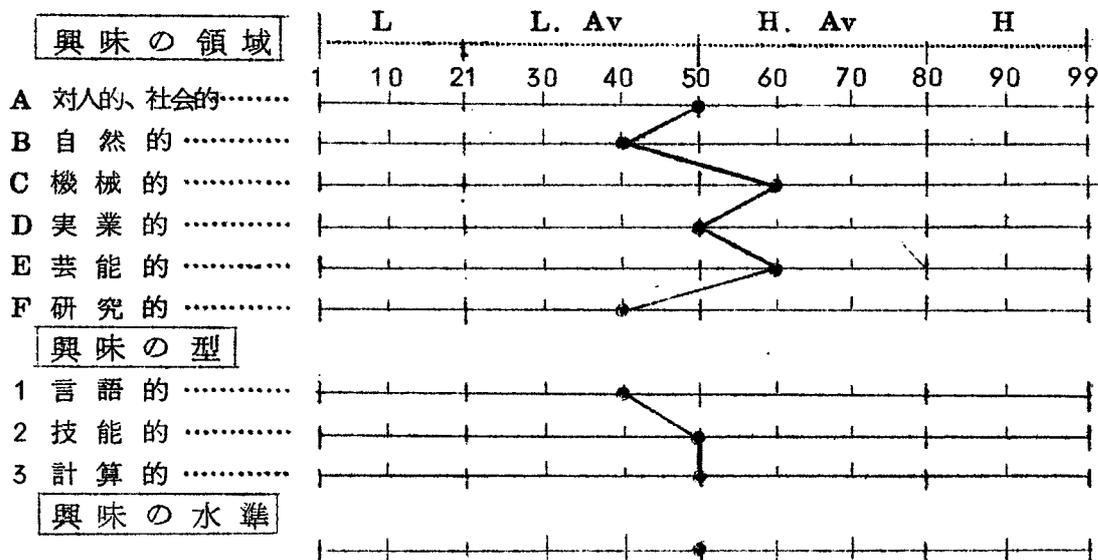
高卒訓練生集団の平均の職業興味の実態をしめしたのが、第21図のプロフィールである。つまり、職業訓練職種で期待される“機械的領域”に特徴がみられる。(昭和44年は第22図)

しかし、プロフィールは平担である。

中卒訓練生集団よりも平均値的なたらえ方をすると職業興味傾向に特徴があらわれていない。以上、高卒訓練生集団の素質ならびに職業興味の実態をあきらかにし、適性がのばさせるような職業訓練をめざす視点から若干の考察を試みたのである。



第21図 45年高卒訓練生集団の職業興味プロフィール



第22図 44年高卒訓練生集団の職業興味プロフィール